

## 神奈川県内における2歳以下の変死体の傾向について

津田 征郎 (横浜市立大医学部法医学)

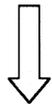
神奈川県においては、昭和56年1月より12月までの一年間に我々が検案・解剖を行った交通事故死を除く警察扱いの変死体の総数は3,232体であり、その内で2歳以下の変死体は73体であった。

これら73体中、今回、死因として問題となっているSIDSの疑いとなる死因の中で、肺炎や気管支炎等の呼吸器系の内因死（従って溺水後の肺炎等を除く）、心不全、鼻口部圧迫による窒息死、吐物吸引による窒息死および明らかにSIDSと診断されているものの合計は43体であり、月別に検討した場合、3月における発生が最も多く7体、11月および12月が各6体と多く、8月が0体、10月が1体、7月および9月が2体と少ない。

これらの死因中で、肺炎や気管支炎等の呼吸器のものが17体と最も多く、次いで吐物吸引による窒息死が15体、鼻口部圧迫による窒息死3体、心不全3体、SIDS3体、飢餓死1体である。特に問題となっている吐物吸引による窒息死中、最も小さい乳児は生後17日、最も大きい者は生後1年6ヶ月であり、また鼻口部圧迫による窒息死は、生後2ヶ月、生後4ヶ月、生後8ヶ月が各1体である。SIDSと診断されているものは、いずれも男性であり、生後2ヶ月が1名、1歳が2名である。

これら43体の所見を、法医学専攻者、監察医および警察医等からの警察への報告書から検討した場合、SIDSとの関連性を疑われるようなものが数例あると思われ、今後我々法医学専攻者、監察医および警察医自身の死因に対するより深い検討とSIDSに対する意見の統一の必要性を痛感させられた。

なおこれら昭和56年1月より12月までの一年間における変死体に関する資料提供を心良く認めて下さった神奈川県警察本部捜査一課検視官の皆様には感謝の意を表します。



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



神奈川県においては、昭和 56 年 1 月より 12 月までの一年間に我々が検案・解剖を行った交通事故死を除く警察扱いの変死体の総数は 3,232 体であり、その内で 2 歳以下の変死体は 73 体であった。